令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
SHゼミ		講義	必修	通年
学科	**学年**	**単位数**	**担当教員名**	**実務家教員**
バイオ技術学科（昼間）	1年	2単位	吉野みゆき	

【科目の目的】	実務経験欄（実務家教員のみ記載）
就職活動における筆記試験対策に取り組む。	

【教科書・参考書・教材等】

カンタン総まとめ　就活の一般常識＆時事

【到達目標】

就職活動時の筆記試験において出題が想定される一般常識問題について、知識を習得する。

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	各回、一般常識問題について学習する。 （国語、数学、理科、社会、時事など）	1	各回、一般常識問題について学習する。 （国語、数学、理科、社会、時事など）
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
ビジネスマナー			講義	必修	通年
学科	**学年**	**単位数**	**担当教員名**		**実務家教員**
バイオ技術学科（昼間）	1年	2単位	豊田　恭子		○

【科目の目的】	実務経験欄（実務家教員のみ記載）
働くことへの自信を身につける。 社会人としてのマナーを身に付けさせる。	企業において、取締役の秘書としてスケジュール管理や書類作成などに従事していた。 小売、サービス業向けに接客サービス研修を行っていた。

【教科書・参考書・教材等】

ビジネス実務マナー検定受験ガイド3級増補版　/　早稲田教育出版
ビジネス実務マナー検定実問題集3級　64～68回　/　早稲田教育出版

【到達目標】

11月実施のビジネス実務マナー検定3級の合格を目標とする。
就職活動や実習におけるビジネスマナーを身に付ける。

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	教科・評価について・ビジネスマナーとは？ 社会人としての資質・敬語について	1	前期の復習・事務用品・事務機器　敬語練習
2	敬語・接遇用語・必要とされる資質	2	電話応対・社内文書
3	執務要件　＊毎授業時に敬語練習を行う	3	社外文書・社交文書
4	組織の機能①　敬語練習	4	社外文書・社交文書・検定対策
5	組織の機能②　敬語練習	5	検定対策
6	対人関係①人間関係　　敬語練習	6	検定対策
7	対人関係②マナー接遇　　敬語練習	7	検定対策
8	対人関係③服装について　　敬語練習	8	検定解答解説・電話応対
9	対人関係④交際（慶事について）　　敬語練習	9	電話応対・伝言メモロープレ
10	対人関係⑥交際（弔事について）　　敬語小テスト	10	模擬文書作成（社交文書）
11	対人関係⑥交際（弔事について）　　敬語練習	11	模擬文書作成（社交文書）
12	会議についての基礎知識	12	模擬文書作成（お礼状作成）
13	情報について①	13	模擬文書作成（お礼状作成）
14	前期試験	14	後期試験
15	解答・解説・情報について②	15	解答・解説、総復習

2020.04改訂
大阪バイオメディカル専門学校

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
英語 I	講義	必修	通年

学科	学年	単位数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	1年	4単位	片桐　摩紀	

【科目の目的】	実務経験欄（実務家教員のみ記載）
バイオ技術者認定試験中級に必要な、バイオ分野の専門知識および英語表現の習得	

【教科書・参考書・教材等】

講師が準備するもの

【到達目標】

認定試験中級で求められる英単語の習得

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	バイオ技術認定試験について、授業の進め方 単位変換の計算の基礎	1	小テスト（前期の復習）
2	乗数計算、単位変換計算	2	免疫
3	実験器具	3	酵素
4	実験器具	4	ホルモン（血糖コントロール）
5	原子の構造、元素、周期表	5	小テスト
6	小テスト、バイオ分野の分子（酵素、アミノ酸）	6	細胞工学
7	細胞	7	細胞工学
8	DNA	8	細胞工学
9	DNAの複製	9	小テスト
10	小テスト	10	遺伝子工学
11	ATPと代謝経路	11	遺伝子工学
12	ATPと代謝経路	12	遺伝子工学
13	総復習	13	総復習
14	試験	14	試験
15	解説	15	解説

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
環境化学	講義	必修	前期

学科	学年	単位数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	1年	2単位	吉野みゆき	

【科目の目的】

環境に関する化学的な内容を中心に、様々な環境問題を学ぶ事により、環境に対する意識の向上を図る。

実務経験欄（実務家教員のみ記載）

【教科書・参考書・教材等】

改定10版　環境社会検定試験eco検定公式テキスト/日本能率協会マネジメントセンター
2026年版　環境社会検定試験eco検定公式問題集/日本能率協会マネジメントセンター

【到達目標】

環境社会検定試験（eco検定）の合格を目指し、環境問題の基本的な内容を理解する事を目標とする。

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	導入と環境社会検定試験（eco検定）の概要	1	
2	環境ラベルと環境問題	2	
3	内外の環境問題の歴史	3	
4	循環型社会と環境問題	4	
5	生物多様性と環境問題	5	
6	校外演習①（おおさかATCグリーンエコプラザ）	6	
7	校外演習②（おおさかATCグリーンエコプラザ）	7	
8	環境社会検定試験（eco検定）の模擬試験	8	
9	地球温暖化とエネルギー	9	
10	水環境と環境問題	10	
11	都市の環境問題	11	
12	企業の環境問題への取り組み	12	
13	環境社会検定試験（eco検定）の直前対策	13	
14	定期試験	14	
15	定期試験の解答と解説	15	

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
基礎化学	講義	必修	通年

学科	学年	単位数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	1年	4単位	片桐　摩紀	

【科目の目的】	実務経験欄（実務家教員のみ記載）
物質の変化などの化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う	

【教科書・参考書・教材等】

サイエンスビュー　化学総合資料　新訂版/実教出版
高校　とってもやさしい化学基礎　改訂版/旺文社

【到達目標】

物質の変化などの化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	計算の基礎（累乗の計算、単位変換）	1	前期の確認小テスト
2	計算の基礎（累乗の計算、単位変換）	2	モル復習、モルの計算
3	物質の三態	3	化学反応式の書き方
4	原子の構造、周期表	4	酸と塩基
5	分子の表現	5	水の電離、pH
6	小テスト、イオン結合	6	小テスト
7	共有結合	7	中和滴定と滴定曲線
8	電気陰性度、廃位結合、分子結晶	8	酸化還元
9	金属結合	9	酸化剤、還元剤
10	小テスト、濃度計算（%）	10	小テスト
11	濃度計算（%）	11	酸化還元滴定・イオン化傾向
12	モルの概念	12	電池
13	総復習	13	総復習
14	学期末テスト	14	学期末テスト
15	テスト解説	15	テスト解説

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
就職対策SPI		講義	必修	通年
学科	**学年**	**単位数**	**担当教員名**	**実務家教員**
バイオ技術学科（昼間）	1年	2単位	清水洋行	○

【科目の目的】	実務経験欄（実務家教員のみ記載）
就職活動において必要となるSPIの対策	複数の製薬企業等にて臨床検査薬の研究・開発に従事していた。

【教科書・参考書・教材等】

特定の教科書などは想定していない・各能力ごとに教材を準備して演習、確認テストに用いる

【到達目標】

言語・非言語の双方の科目において、SPIで求められる能力水準に達すること

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	言語・非言語の能力把握のための模擬試験	1	言語・非言語の能力把握のための模擬試験
2	言語・非言語の能力把握のための模擬試験	2	言語・非言語の能力把握のための模擬試験
3	能力ごとの対策問題・確認試験	3	能力ごとの対策問題・確認試験
4	能力ごとの対策問題・確認試験	4	能力ごとの対策問題・確認試験
5	能力ごとの対策問題・確認試験	5	能力ごとの対策問題・確認試験
6	能力ごとの対策問題・確認試験	6	能力ごとの対策問題・確認試験
7	能力ごとの対策問題・確認試験	7	能力ごとの対策問題・確認試験
8	能力ごとの対策問題・確認試験	8	能力ごとの対策問題・確認試験
9	能力ごとの対策問題・確認試験	9	能力ごとの対策問題・確認試験
10	能力ごとの対策問題・確認試験	10	能力ごとの対策問題・確認試験
11	能力ごとの対策問題・確認試験	11	能力ごとの対策問題・確認試験
12	能力ごとの対策問題・確認試験	12	能力ごとの対策問題・確認試験
13	能力ごとの対策問題・確認試験	13	能力ごとの対策問題・確認試験
14	能力ごとの対策問題・確認試験	14	能力ごとの対策問題・確認試験
15	能力判定のためのテスト	15	能力判定のためのテスト

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
生物学	講義	必修	通年

学科	学年	単位数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	1年	4単位	大洲　竹晃	○

【科目の目的】

バイオテクノロジーを学んでいく上で必要となる生物学の基礎知識を習得する。単なる暗記ではなく、しくみや図とともに理解し覚えていくことでより確かな知識を付けていく。

実務経験欄（実務家教員のみ記載）

製薬・バイオ企業にて20年以上の研究開発経験を有する。

【教科書・参考書・教材等】

『基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学』 羊土社
『サイエンスビュー　生物総合資料 新訂版』 実教出版

【到達目標】

高校生物の基本的な問題（定期試験レベル）で各単元平均80点取れる状態にする。

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、小テスト・授業態度(20点満点)、期末試験(40点満点)、の合計により、
100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	序章　はじめに	1	7章　多細胞生物への道②
2	1章　生物学の基本	2	7章　多細胞生物への道②
3	1章　生物学の基本	3	8章　多細胞生物への道③
4	2章　細胞のプロフィール	4	8章　多細胞生物への道③
5	2章　細胞のプロフィール	5	9章　個体を守る免疫のシステム
6	3章　何が細胞の形や機能を決めているか	6	9章　個体を守る免疫のシステム
7	3章　何が細胞の形や機能を決めているか	7	10章　生きること、死ぬこと
8	4章　細胞が生きて活動していくために	8	10章　生きること、死ぬこと
9	4章　細胞が生きて活動していくために	9	11章　個体としてのまとまり
10	5章　タンパク質が細胞のさまざまな活動を担う	10	11章　個体としてのまとまり
11	5章　タンパク質が細胞のさまざまな活動を担う	11	12章　生物の進化と多様性
12	6章　多細胞生物への道①	12	12章　生物の進化と多様性
13	6章　多細胞生物への道①	13	総復習
14	学期末試験対策	14	学期末試験対策
15	学期末試験	15	学期末試験

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
生物学実習	実習	必修	前期

学科	学年	単位数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	1年	5単位	各担当	

【科目の目的】	実務経験欄（実務家教員のみ記載）
実験における基本的な知識、技術を習得する。	

【教科書・参考書・教材等】

・サイエンスビュー　生物総合資料
・サイエンスビュー　化学総合資料

【到達目標】

基礎的な実習に取り組み、実験における考え方や基本的操作を習得する。

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	実習に関する諸注意 実験ノートの書き方	1	
2	器具の洗浄 使用する水の種類	2	
3	マイクロピペットの取扱い① 精度管理	3	
4	マイクロピペットの取扱い・操作練習② プレートリーダーの取扱い	4	
5	マイクロピペットの取扱い・操作練習③ 自然数希釈	5	
6	マイクロピペットの取扱い・操作練習④ 段階希釈	6	
7	細胞・組織染色① ギムザ染色（顕微鏡の取扱い・血球の判別）	7	
8	細胞・組織染色② ギムザ染色（染色結果の比較）	8	
9	細胞・組織染色③ HE染色（臓器の特徴観察）	9	
10	細胞・組織染色④ HE染色（染色結果の比較）	10	
11	細胞・組織染色⑤ パパニコロウ染色（染色結果の比較）	11	
12	中和滴定① 試薬調製・指示薬・pHメーターの取扱い	12	
13	中和滴定② 未知検体の中和滴定・濃度算出	13	
14	中和滴定③ 未知検体の中和滴定・濃度算出	14	
15	テスト・レポート提出	15	

2020.04改訂
大阪バイオメディカル専門学校

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
微生物学実習	実習	必修	前期

学科	学年	単位数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	1年	5単位	各担当	

【科目の目的】	実務経験欄（実務家教員のみ記載）
実験における基本的な知識、技術を習得する。	

【教科書・参考書・教材等】

・サイエンスビュー　生物総合資料
・サイエンスビュー　化学総合資料

【到達目標】

基礎的な実習に取り組み、実験における考え方や基本的操作を習得する。

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	単位（SI基本単位・SI接頭辞）	1	
2	実験器具・実験機器の取扱い	2	
3	電子天秤の取扱い	3	
4	試薬の取扱い・諸注意	4	
5	試薬調製①（パーセント濃度）	5	
6	試薬調製②（モル濃度）	6	
7	試薬調製③（規定濃度）	7	
8	試薬調製④（培地作成）	8	
9	微生物①（滅菌・空中落下細菌）	9	
10	微生物②（コロニー観察・グラム染色）	10	
11	微生物③（植菌・培養）	11	
12	微生物④（増殖状態の観察）	12	
13	微生物⑤（BGLB培地・大腸菌群数）	13	
14	微生物⑥（コリラート・大腸菌群数）	14	
15	テスト・レポート提出	15	

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
SHゼミⅡ	講義	選択	通年

学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	2年	60時間	吉野みゆき	

【科目の目的】

中級バイオ技術者認定試験合格に向けての対策授業

実務経験欄（実務家教員のみ記載）

【教科書・参考書・教材等】

サイエンスビュー生物・サイエンスビュー化学
中級バイオ技術者認定試験対策問題集

【到達目標】

中級バイオ技術者認定試験の合格

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、
各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。
この授業は毎週、課題をgoogleクラスルーム上に掲載し、受講者はこの取り組みを期限までにgoogleフォームにて提出する。前期後期ともに中間試験・期末試験を実施する。これは、クラスごとに対面にて指定日に実施する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋1	1	中級バイオ技術者認定試験より抜粋1
2	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋2	2	中級バイオ技術者認定試験より抜粋2
3	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋3	3	中級バイオ技術者認定試験より抜粋3
4	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋4	4	中級バイオ技術者認定試験より抜粋4
5	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋5	5	中級バイオ技術者認定試験より抜粋5
6	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋6	6	中級バイオ技術者認定試験より抜粋6
7	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋7	7	中級バイオ技術者認定試験より抜粋7
8	中間試験	8	中間試験
9	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋8	9	中級バイオ技術者認定試験より抜粋8
10	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋9	10	中級バイオ技術者認定試験より抜粋9
11	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋10	11	中級バイオ技術者認定試験より抜粋10
12	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋11	12	中級バイオ技術者認定試験より抜粋11
13	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋12	13	中級バイオ技術者認定試験より抜粋12
14	初級バイオ技術者認定試験過去問より抜粋13	14	中級バイオ技術者認定試験より抜粋13
15	期末試験	15	期末試験

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
英語Ⅱ		講義	必修	通年
学科	**学年**	**授業時数**	**担当教員名**	**実務家教員**
バイオ技術学科（昼間）	2年	60時間	片桐　摩紀	

【科目の目的】	実務経験欄（実務家教員のみ記載）
バイオ技術者認定試験中級に合格する英語力の習得	

【教科書・参考書・教材等】

講師が準備するもの

【到達目標】

バイオ技術者認定試験中級の英語10問の正答率80％以上

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	1年の復習（中級バイオ技術認定試験より）	1	中級バイオ技術認定試験より英語演習
2	1年の復習（中級バイオ技術認定試験より）	2	試験対策
3	1年の復習（中級バイオ技術認定試験より）	3	試験対策
4	1年の復習（中級バイオ技術認定試験より）	4	試験対策
5	遺伝子工学	5	試験対策
6	遺伝子工学演習（中級バイオ技術認定試験より）	6	試験対策
7	遺伝子工学演習（中級バイオ技術認定試験より）	7	試験対策
8	細胞工学演習（中級バイオ技術認定試験より）	8	試験対策
9	細胞工学演習（中級バイオ技術認定試験より）	9	試験対策
10	中級バイオ技術認定試験より英語演習	10	試験対策
11	中級バイオ技術認定試験より英語演習	11	試験対策
12	中級バイオ技術認定試験より英語演習	12	試験対策
13	復習と演習	13	復習と演習
14	試験	14	試験
15	解説	15	解説

2020.04改訂
大阪バイオメディカル専門学校

R8年度シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
就職指導	講義＆演習	選択	通年

学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	2年	270時間	各担当	

【科目の目的】

卒業後の就労支援を行う。
卒業後に生き生きとした社会人となることを目標に、自分のために前向きな姿勢を身につけさせる。

実務経験欄（実務家教員のみ記載）

【教科書・参考書・教材等】

なし

【到達目標】

卒業後の就労支援を行う。学生の自己発見を促す。

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】

	前期	授業結果
1	オリエンテーション	□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
2	仕事探しのベースとは	□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
3	自分の一生を考えて職業を見つける	□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
4	様々な業種・職種を理解する	□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
5	働くことの責任とその意義	□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
6	会社と仕事の決まりやしくみを知る	□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
7	ビジネス社会と自己表現	□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
8	※上記について、年間を通して各学生の状況、ニーズについて聞き取りをしながら指導を行う。	□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
9		□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
10		□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
11		□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
12		□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
13		□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
14		□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ
15		□ 予定通り問題なく終了した場合はチェックのみ

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
就職対策B	講義	必修	前期

学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	2年	60時間	各実習コース担当	

【科目の目的】

就職活動を進めるために必須の知識である自己分析を重点的に行い、
選考を通過するための自己PR文書作成を目指す。

実務経験欄（実務家教員のみ記載）

【教科書・参考書・教材等】

特になし

【到達目標】

就職活動を進めていくための具体的・実践的な手法を学び、自分自身で就職活動ができるようになる。
選考の必須である自己PR文の作成を行う。

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、
各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。
課題や指導は開講コマの時間帯に限定せず、就職活動の進捗、選考スケジュールにより柔軟に対応する。
自己PR文書作成のための自己分析を重点的に行う。対面の指導とgoogleクラスルーム上の課題のハイブリッド形式で開講する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	オリエンテーション（昨年度実績、就職活動の流れ、社会の状況、心構えなど）	1	
2	就職情報サイトの活用方法	2	
3	就活書類作成の基本、ビジネスメールの基本	3	
4	自己分析1　自己分析とは	4	
5	自己分析2　自身を振り返る「中学校時代」	5	
6	自己分析3　自身を振り返る「高校時代」	6	
7	自己分析4　自身を振り返る「専門学校時代」	7	
8	自己分析5　自身を振り返る「苦労したこと、失敗したこと、それに対して自分なりに努力、工夫したこと」※活動テーマは自由	8	
9	自己分析6　自身を振り返る「苦労したこと、失敗したこと、それに対して自分なりに努力、工夫したこと」※活動テーマは自由	9	
10	自己分析7　　自身を振り返る「自分なりに満足できた結果と周囲からの評価」※活動テーマは自由	10	
11	自己分析6　自身を振り返る「活動を通して成長できたこと、自信がついたこと、学んだこと」※活動テーマは自由	11	
12	自己分析7　自身を振り返る「活動を通して自覚できた長所、特徴、強み」※活動テーマは自由	12	
13	自己分析8　自身を振り返る「活動を通して自覚できた短所、弱点。その短所・弱点について思うこと」※活動テーマは自由	13	
14	自己分析9「なぜ大学ではなく、専門学校のバイオに進んだか」「所属するコースを選んだきっかけ」「コース実習で学んだこと」	14	
15	自己PR文の完成、提出	15	

2020.04改訂
大阪バイオメディカル専門学校

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
生化学	講義	必修	前期

学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	2年	30時間	新谷 靖	○

【科目の目的】	実務経験欄（実務家教員のみ記載）
細胞における様々な現象を理解する上で欠かせない生化学的な知識を身に付ける。中級バイオ技術者認定試験に受かるだけの実力を養う。	医薬品メーカーにおいて、医薬品創製のため生化学的な研究に従事していた。

【教科書・参考書・教材等】

講師が用意したもの

【到達目標】

細胞における様々な現象を理解でき、中級バイオ技術者認定試験に受かるだけの実力を養う。

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	細胞、生物を構成する主要な有機化合物	1	
2	糖質	2	
3	タンパク質とアミノ酸	3	
4	脂質	4	
5	核酸	5	
6	ビタミン、補酵素、ミネラル	6	
7	ホルモン	7	
8	水	8	
9	酵素	9	
10	生体エネルギーと代謝概論	10	
11	代謝各論1	11	
12	代謝各論2	12	
13	植物の生化学	13	
14	前期試験	14	
15	試験解説	15	

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
微生物学	講義	必修	前期

学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	2年	30時間	澤田　秀和	○

【科目の目的】

微生物の基礎と応用について、その概要を理解することを主な目的とする。

実務経験欄（実務家教員のみ記載）

製薬企業において、微生物代謝産物由来の医薬品やバイオテクノロジー応用医薬品の製造に関する研究に従事していた。

【教科書・参考書・教材等】

担当教員が作成した教科書を使用する。

【到達目標】

微生物の取扱い、微生物の種類と分類、微生物の細胞構造、微生物の増殖特性と培養法、微生物の代謝などの基礎的事項について理解すること、醸造・発酵食品・食品素材の製造、医薬品の製造、環境改善などへの微生物の利用、食中毒菌と食品の殺菌・保存など、我々の生活と微生物との密接な関わりについて理解することを目標とする。

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	微生物の生態と微生物による物質循環	1	
2	微生物の一般的取扱い	2	
3	微生物の種類：細菌、古細菌	3	
4	微生物の種類：真菌、バクテリオファージ	4	
5	微生物の分類	5	
6	微生物の細胞構造	6	
7	微生物の増殖と培養法	7	
8	微生物の糖、脂質代謝	8	
9	微生物のアミノ酸、核酸代謝	9	
10	微生物を用いた醸造・発酵食品の製造	10	
11	微生物一次代謝産物の発酵生産と用途	11	
12	微生物二次代謝産物由来の生理活性物質	12	
13	微生物による環境改善とエネルギー生産	13	
14	病原微生物の経口感染・食中毒	14	
15	食品の殺菌と保存	15	

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
病態学	講義	必修	前期

学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	2年	30時間	大庭・友光	

【科目の目的】

病気の成り立ちを理解し、病気によって生体に起こる変化を学ぶ。

実務経験欄（実務家教員のみ記載）

【教科書・参考書・教材等】

南山堂「なるほどなっとく！病理学　病態形成の基本的な仕組み」

【到達目標】

病気によって細胞・組織・器官などに起こる変化を理解し、生命科学を学ぶ上で基礎となる病気のメカニズムや病理的な知識を習得する。

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	病態学とは？	1	
2	細胞の異常①	2	
3	細胞の異常②	3	
4	先天異常	4	
5	循環障害	5	
6	代謝異常	6	
7	老化	7	
8	感染と感染症	8	
9	免疫と免疫異常	9	
10	炎症	10	
11	腫瘍①	11	
12	腫瘍②	12	
13	まとめ	13	
14	試験	14	
15	振り返り	15	

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
分子生物学	講義	必修	前期

学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	2年	30時間	清水　洋行	○

【科目の目的】

バイオ技術者検定試験中級レベル以上の分子生物学の理解を目指す。

実務経験欄（実務家教員のみ記載）

複数の製薬企業等にて臨床検査薬の研究・開発に従事していた。

【教科書・参考書・教材等】

休み時間の分子生物学（講談社）、サイエンスビュー「生物総合資料」（実教出版）、とってもやさしい生物基礎（旺文社）。

【到達目標】

授業計画に記載した各事項の基本的な内容を理解することを目標とする。具体的には、バイオ技術者検定試験中級レベルの合格を目標とする。

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、
各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	遺伝情報の使い方	1	
2	タンパク質	2	
3	タンパク質	3	
4	核酸	4	
5	核酸	5	
6	遺伝子発現機構	6	
7	遺伝子発現機構	7	
8	細胞内骨格と細胞分裂	8	
9	細胞内骨格と細胞分裂	9	
10	分子生物学的手法	10	
11	分子生物学的手法	11	
12	バイオインフォマティクス	12	
13	バイオインフォマティクス	13	
14	まとめのテスト	14	
15	テストの解説	15	

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
分析化学実習Ⅲ（専門Ⅰ） 細胞コース/安全性試験コース	実習	必修	通年

学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	2年	150時間	各コース担当	○

【科目の目的】

所属コースの記載箇所を参照。
細胞コース…無菌操作・細胞培養の基礎を習得する
安全性試験コース…動物実験・病理学実験技術と知識の基礎を習得する。

実務経験欄（実務家教員のみ記載）

清水：複数の製薬企業等にて臨床検査薬の研究・開発に従事していた。
大洲：製薬・バイオ企業にて20年以上の研究開発経験を有する。

【教科書・参考書・教材等】

所属コースの記載箇所を参照。
細胞コース…改定　細胞培養入門ノート（羊土社）
安全性試験コース…細胞・組織染色の達人(羊土社)、病理組織染色の達人(医学書院)

【到達目標】

所属コースの記載箇所を参照
細胞コース…細胞培養の知識と技術を習得する
安全性試験コース…安全性試験に関連する基本技術と知識を習得する

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

前期	後期
各コース・実習分野ごとにオリエンテーション	各コース・実習分野ごとにオリエンテーション
細胞コース…無菌操作技術、細胞培養技術を修得し、細胞増殖曲線を作成する。	細胞コース…細胞生存率染色法を学び、未知物質を用いた細胞毒性試験を行う。蛍光免疫染色について理解し、目的のたんぱく質を検出、形態学的解析手法を学ぶ。
安全性試験コース…①作製した抗体の精製と、精製抗体を用いたELISA法の習得。③実験動物取扱い方法の基礎(飼育管理・薬剤投与・採血・解剖・病理標本作製)の習得	安全性試験コース…①疾患モデルマウスの作製②作製したモデルマウスを用いた病理標本作製③各種組織染色法を用いた組織の変化・異常の検出④蛍光免疫染色による目的タンパク質の検出と変化・異常の観察

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
分析化学実習Ⅲ（専門Ⅱ） 細胞コース/安全性試験コース	実習	必修	通年

学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	2年	150時間	各コース担当	○

【科目の目的】

所属コースの記載箇所を参照。
細胞コース…無菌操作・細胞培養の基礎を習得する
安全性試験コース…動物実験・病理学実験技術と知識の基礎を習得する。

実務経験欄（実務家教員のみ記載）

清水：複数の製薬企業等にて臨床検査薬の研究・開発に従事していた。
大洲：製薬・バイオ企業にて20年以上の研究開発経験を有する。

【教科書・参考書・教材等】

所属コースの記載箇所を参照。
細胞コース…改定　細胞培養入門ノート（羊土社）
安全性試験コース…細胞・組織染色の達人(羊土社)、病理組織染色の達人(医学書院)

【到達目標】

所属コースの記載箇所を参照
細胞コース…細胞培養の知識と技術を習得する
安全性試験コース…安全性試験に関連する基本技術と知識を習得する

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、
各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

前期	後期
各コース・実習分野ごとにオリエンテーション	各コース・実習分野ごとにオリエンテーション
細胞コース…無菌操作技術、細胞培養技術を修得し、細胞増殖曲線を作成する。	細胞コース…細胞生存率染色法を学び、未知物質を用いた細胞毒性試験を行う。蛍光免疫染色について理解し、目的のたんぱく質を検出、形態学的解析手法を学ぶ。
安全性試験コース…①作製した抗体の精製と、精製抗体を用いたELISA法の習得。③実験動物取扱い方法の基礎(飼育管理・薬剤投与・採血・解剖・病理標本作製)の習得	安全性試験コース…①疾患モデルマウスの作製②作製したモデルマウスを用いた病理標本作製③各種組織染色法を用いた組織の変化・異常の検出④蛍光免疫染色による目的タンパク質の検出と変化・異常の観察

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
分析化学実習Ⅳ（専門・応用Ⅰ） 細胞コース 安全性試験コース	実習	必修	通年

学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	2年	150時間	各担当	○

【科目の目的】

所属コースの記載箇所を参照。
細胞コース…無菌操作・細胞培養の基礎を習得する
安全性試験コース…動物実験・病理学実験技術と知識の基礎を習得する。

実務経験欄（実務家教員のみ記載）

清水：複数の製薬企業等にて臨床検査薬の研究・開発に従事していた。
大洲：製薬・バイオ企業にて20年以上の研究開発経験を有する。

【教科書・参考書・教材等】

所属コースの記載箇所を参照。
細胞コース…改定　細胞培養入門ノート（羊土社）
安全性試験コース…細胞・組織染色の達人(羊土社)、病理組織染色の達人(医学書院)

【到達目標】

所属コースの記載箇所を参照
細胞コース…細胞培養の知識と技術を習得する
安全性試験コース…安全性試験に関連する基本技術と知識を習得する

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、
各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
	各コース・実習分野ごとにオリエンテーション		各コース・実習分野ごとにオリエンテーション
	細胞コース…無菌操作技術、細胞培養技術を修得し、細胞増殖曲線を作成する。		細胞コース…細胞生存率染色法を学び、未知物質を用いた細胞毒性試験を行う。蛍光免疫染色について理解し、目的のたんぱく質を検出、形態学的解析手法を学ぶ。
	安全性試験コース…①作製した抗体の精製と、精製抗体を用いたELISA法の習得。③実験動物取扱い方法の基礎(飼育管理・薬剤投与・採血・解剖・病理標本作製)の習得		安全性試験コース…①疾患モデルマウスの作製②作製したモデルマウスを用いた病理標本作製③各種組織染色法を用いた組織の変化・異常の検出④蛍光免疫染色による目的タンパク質の検出と変化・異常の観察

令和8年度　シラバス 兼 授業計画書

科目名称	授業の種類	履修区分	履修時期
分析化学実習Ⅳ（専門・応用Ⅱ） 細胞コース 安全性試験コース	実習	必修	通年

学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
バイオ技術学科（昼間）	2年	150時間	各担当	○

【科目の目的】

所属コースの記載箇所を参照。
細胞コース…無菌操作・細胞培養の基礎を習得する
安全性試験コース…動物実験・病理学実験技術と知識の基礎を習得する。

実務経験欄（実務家教員のみ記載）

清水：複数の製薬企業等にて臨床検査薬の研究・開発に従事していた。
大洲：製薬・バイオ企業にて20年以上の研究開発経験を有する。

【教科書・参考書・教材等】

所属コースの記載箇所を参照。
細胞コース…改定　細胞培養入門ノート（羊土社）
安全性試験コース…細胞・組織染色の達人(羊土社)、病理組織染色の達人(医学書院)

【到達目標】

所属コースの記載箇所を参照
細胞コース…細胞培養の知識と技術を習得する
安全性試験コース…安全性試験に関連する基本技術と知識を習得する

【評価方法と基準】

出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、
各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。

【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）

	前期		後期
1	各コース・実習分野ごとにオリエンテーション	1	各コース・実習分野ごとにオリエンテーション
2		2	
3	細胞コース…無菌操作技術、細胞培養技術を修得し、細胞増殖曲線を作成する。	3	細胞コース…細胞生存率染色法を学び、未知物質を用いた細胞毒性試験を行う。蛍光免疫染色について理解し、目的のたんぱく質を検出、形態学的解析手法を学ぶ。
4		4	
5	安全性試験コース…①作製した抗体の精製と、精製抗体を用いたELISA法の習得。③実験動物取扱い方法の基礎(飼育管理・薬剤投与・採血・解剖・病理標本作製)の習得	5	安全性試験コース…①疾患モデルマウスの作製②作製したモデルマウスを用いた病理標本作製③各種組織染色法を用いた組織の変化・異常の検出④蛍光免疫染色による目的タンパク質の検出と変化・異常の観察
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	